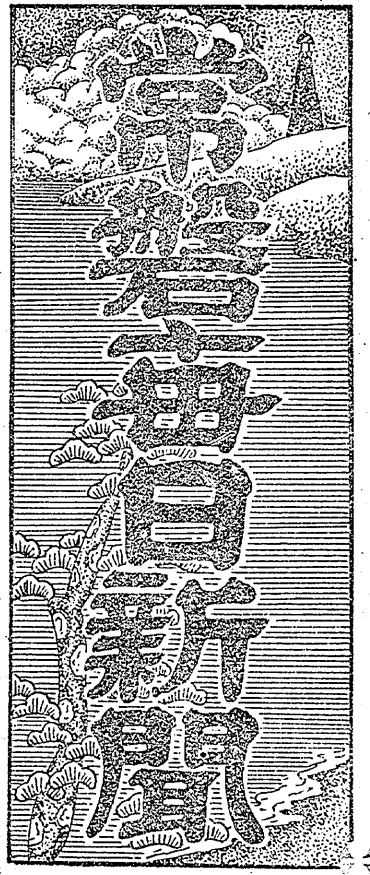


【刊夕】日四十二月八



定部一錢 部一錢 部一錢 部一錢 部一錢
刊休日祭曜日 刊休日祭曜日 刊休日祭曜日 刊休日祭曜日 刊休日祭曜日
治文崎川 人樹印人轉補兼行發
五三町橋長町平郡城石縣島福
番〇三六話電 社開新日每警常 所行發
社會式株 刷印日每警常 所刷印

夏日小品 (一)

眞繼雲山

魂の征服

拙宅から道一つへだてた向ふの本屋の若夫婦が喧嘩をオツ始めた。事實は妻君がヒステリックで時々気が變になるらしいので、喧嘩は毎度のことだが、何しろ物見高い東京の夏の夕べだから店先には見る／＼黒山を築いた。しかし戦亂中の若夫婦の眼中には勿論、見物人はなかつた。

原因も主張も丸で分らぬが、動作だけは二階越しによく見える。亭主が赤ん坊を左手に抱いたまゝ右手で妻君をビシヤ／＼ぶん殴つてゐる。最初のあいだは妻君も負けず、に對抗してゐたが亭主の力や優りけん、忽ち蹴倒されて矢継ぎ早になぐり飛ばされた。

若夫婦に赤ん坊さうりだから、肝腎の止め男がゐないどう勘定しても役者が一枚足りぬ。抱かれた赤ん坊は火のつくやうに泣き叫んでゐる。可哀相に叩かれた頬の眞

ッ赤に腫れ上つた妻君は、三十六計とう／＼刃の下を潜つて便所へ逃げ込んだ。亭主が足でポン／＼と戸を蹴飛ばしてゐる、中の妻君が懸命に鍵をつかまへてゐるらしい。やがて龍虎の戦ひ病れたり見えて、元の静寂に還つた。

この一劇、亭主の豪勇、眞に驚服すべきものがある。左れど徐ろに考へてみると女房をブン殴るくらゐのことなら大抵の男には動まる彼の亭主はそれで果たして件の女房を服し得たであらうか。

馬上に天下を取るとも匹夫の志を奪ふべからずと古への豪傑も嘆じてゐる。武勇の征服は形式に過ぎない、精神的の共鳴をもち得ることが眞のせい服ではあるまいか。大臣が地方を旅行すると先生の號令一つで小學生までが出迎へる。下役や人民共がベコ／＼と面白いやうに頭を下げる。仍りて以て天下をせい服し得たりと好い氣もちで願を突き出してゐるのは自分ひとりの早合点であつて、斯くの如きを佛教では偏計所執といふ。



月夜

黒井春美作

月の明るき宵の夜に友なる人をたづねんと
ナイト家をば出でけるに十五夜月が光々と雲間をうねる美しさ

文藝募集

あまりの美景にうたれてか道ゆく足をフト止めてしばし景色に見惚れたり
すゝきにすたたくすむしの鳴く音も妙に聞える
唯かが吹くか草笛の流れをつたう静けき夜
月の明るき宵の夜

亡父仁太郎儀神葬祭に付新盆不仕御提灯等の御寄贈は御辭退申上候
八月二十一日
谷口長治

寶鈴院新盆之處時節柄提灯其他の御供物一切乍失禮御遠慮申上候
平町才越小路一番地
鈴木郡司

亡父久次郎新盆の處時節柄提灯御供物其他一切御辭退申上候
昭和六年八月
月見町 根本一馬

キヨ子儀新盆に相當候へ共時節柄提灯其の他供物一切御辭退申上候
白銀町一五
丹野淳

亡母フ子儀新盆之處時節柄提灯其の他御寄贈御辭退申上候
八月二十二日
二丁目(元福見屋)
鈴木善七

氷水 開業廣告

弊店等銚蒲製造販賣期間中は多大の御引立に預り厚く御禮申上げます、今回例年の通り氷水及アイスクリーム其他氷加工清涼飲料物の製造販賣を開始致しましたから多少に拘はらず御用命御引立の程願上げます。

砂糖。大暴落のため

味は百パーセント

- アイスクリーム 十 錢
- アツキアイス 五 錢
- 水 豆 八 錢
- ミルクセーキ 二十 錢

その外一切……出前迅速

平警察署通り
電話三〇五番
市

平町字一丁目
電話一四一番
寅

更科
電話一六六番
し

魚清食堂部
電話六三三番

柳川なべ 一人前二十錢

月曜言論

盆火と生活交渉

平驛の待合室其他構内數ヶ所を始めとして街の辻々に「平のお盆の爲めに」として舊盆祭の臨時列車増發の宣傳ビラが貼り出されて居る、驛の名を以つてする宣傳ビラに矢張りお役所的な遠慮があつてかバツと人の眼をひく様な派手なものではなく、處女の様にはかみさを見せて「ジンガラ念佛と盆踊」と思はせ振りに書き添えてある、しかし「平のお盆」はジンガラ念佛と盆踊りの外に松焚火の催しある事を忘れてはならぬ。聖火炎々として天を焦がす壯觀は全町を隈なく裝飾する原始的なイルミネーションでありネオンサインである、淫賣狩りと賭博檢舉が大好きだつた數代前の警察署長某は此の松焚火を火防上危険多しと説き且つ若松を伐採するを不生産的であると稱して廢止せしめんと企てた事がある、郷土的な地方色を理解せず、傳統的な歴史を尊重する事を忘れ、此舉に對する平人士の喜びと思慕を知らなかつた署長の大英斷？は轟然たる反對に葬り去られた事は勿論である、そして盆踊りとジンガラ念佛の大舞臺に化す全町に年々變りなく照明を添えて實る秋盛んな平和的光景を濃厚に彩つて居る、此の盆火は祖先の靈に献げる燈明の故を以つて

起つた事は言を待たないが傍ら害虫驅除の上に大きな力があつたと聞く、また本紙の傳ふる如く藩政時代には神社奉行が火事裝束で焚火の間に馬を駈り火災に處する乗馬の訓練に役立たしめたといふ、現代人が單に遺風として是れを繼承するばかりの懐古趣味のみとすれば甚だあきたらざる感がある、此の行事を我々の生活の内に取り入れて其の價値効用を一層發揚する事に努めたならば盆火は更らに其の意義を深め得るであらう、例へば焚火の間、即ち二三十分間に至り全町の電燈を一齊に消燈する、そふする事に依つて飛んで火に入る夏の虫は是れを悉く焼却し得るではないか、何れにもせよ、祖先の遺風や昔事の慣習が日と共に亡びんとするは、其の遺風や慣習が我々の生活交渉と餘りに縁遠い結果である事を思ひば、舊態依然として残る此の一風景を近代人の生活に結合せしめん事を提言するのものがち徒爾にあらざると信ずるのである。

帝國軍人の龜艦。此美舉

舊盆に困つて居る

人々への恵みの金

八雲乗組員高田清一君が手當を節約して

平町鎌田町磐崎屋高田清二郎氏長男練習艦八雲乗組員清一君は自己の受くる手當を節約し此れ迄度々平署人事相談所へ送金して來た事は屢報の通りであるが又々本日平署人事相談所へ舊盆に際し困つて居る人々に恵んで下さいと金十二圓送附して來た

初秋警覺良好

目下五齡盛ん

石城郡下の初秋警覺は目下五齡盛んで茲二三日中には上簇するが發育は頗る良く掃立當時より不順な天候であつた爲め一般に注意を怠ら

取引を擴張

四倉商市場

石城郡四倉、植田、勿來の三商市場では郡内各町村の受持區域を分擔し山間方部の不便な村落迄もれなく取引を行ふべく計畫中であつたが愈々四倉市場では今秋繭より着手し、事となり先

今日話

或る婦人雜誌で「私達から取除きた一つの難用」といふ問を掲げて讀者の解答を求めた。するとその答の中に「朝父は顔を洗ひにいつて、洗つてからこちらから持つてゆく手拭を待つてをります。自分で行く時持つて行けばよいのでせう。持つて行く人はわざ／＼その爲めに立たねばなりません」と答はこれだけであるが我が國の家庭に於て餘り男子が殿様然として左の物を右するにも人手を煩はすことは改めねばならぬ悪習の一つである。がしかし、かうした悪習を撤廢するためには家人が自治的に身の廻りの始末の出来るやうに家庭設備を改善すればよい。先きにあげた一例でも、其家では洗面場に手拭掛がなくして何處か掛離れた所に手拭が置かれてゐるのであらう。毎日手拭を持つて行くことに煩はされるよりは洗面場の手近に手拭掛を一本拵へれば僅五錢か十錢で立派に出来る。

縣道編入路線の改修

赤井嶽參道其他二線を

植田驛小名濱間村道(三二七〇米)及び赤井嶽から關御井嶽へ通ずる(六七六六米)及び江名、鹿島間(六八五五米)の各路線は近々縣道になる見込であるので平土木監督所では各町村に對し修理方を通過した

藤原川下流工事

藤原川下流の石城郡玉川村大字住吉及び本谷は少くしの雨にも水が氾濫し之れが被害少くなつたが此程縣補助四千四百五十圓で工事許可の通達があつたの

遊興税割當

一騒ぎか？

平町藝妓料理業組合では縣から六年度縣稅遊興稅として昨年から六分減の一萬廿八圓請負方交渉があつたが前年より二割五分減でなければ引受られないと縣に陳情書を提出したが更に平町貸座敷業組合でも昨年の決定額一

水道起債促進

平町水道擴張工事委員會は本日午後一時から會議室に開會簡易保險局に對する十萬圓起債の促進方に就いて協議した

平の金融狀態

舊盆を控へての平町の金融界は深刻な不況だけに歳末以上のあはただしさである。今

平町人事

- △長崎町三六 大阿久政治氏三男義夫
△四軒町一六 猪狩勝義氏四女英子
△田町七二 漆間七郎氏三男正美
△月見町一三 國井源喜知氏三男良益
△長崎町二二 松本嘉七氏三男孝一
△白銀町鐵道官舎三ノ二戸 伊藤小十郎氏三男三郎
□ 死
△白銀町一 鈴木ユウ(五八)
△久保町三二 會川兼治(四四)

愛讀者への奉仕

川崎小鳥著

滿州土產談

四六版二百數十頁

月極讀者に無代進呈

本紙連載の川崎本社社長執筆「滿州土產談」は前後百回に亘り、滿州を鋭利な觀察眼に依つて、あらゆる方面より、縦横に解剖し、輕妙な筆致は、よく其の實相を捉え來つて餘す處なく、眼前に展開しました。本社には各方面の求望に鑑み、茲に多大な犠牲を拂つて、單行本となし日頃の御後援に酬えん爲め、讀者諸彦に、洩れなく無代進呈する事となり、目下印刷中でありませう。今や日支兩國間の交渉往來益々緊密なるに當り、滿州の近情を明らかに知る事は、轉じて我が國運の歸趨を下すに足るべく、從つて國民必讀の文字は此の好著の全幅に飛躍して居ります、御期待を願ふと同時に本社

痛まじき戀よ!!!

地位も 權勢も 踏み越えて

養鶏場主の娘と其雇人 甘美な夢も一時

名古屋市南區直來町四丁目二十七番地保谷勝藏四女トメ子(七)はさる二十一日平町字城山本丸二七鈴木三郎(三)を慕ふて家出したので父勝藏から平署へ取押方を願ひ出た

平署では二十三日前

記トメを進行保護を加へる間もなく飛んで来たトメの義兄に引渡し説諭の上旅立たせたが、大正十五年の冬も終りに近い頃名古屋でさゝやかな養鶏業を営んでゐる彼女の實家に雇はれた三郎と彼女とは結ばれて月の夜など舞鶴公園のベンチに

語り明す

クラブは、何時しか二人のみに秘められた線を飛び越え主人の娘と雇人の因習も傳統も地位も權勢も型の如くに踏み越えて二人の心は深められて行つた、そして一昨年の七月三郎は徴兵検査のため平町へ歸郷してしまつた、残された彼女は二ヶ年の間毎日暗愁の涙にぬれて暮らした、二十一日最後の

勝利を

郎の後を慕ふて家出、甘美な夢の陶酔も一夜のうちに破られた夏のラッローマン

惜敗す

古河との競技

南町及び警中が聯合し廿三日午後一時から古河炭礦グラウンドに於て古河と各競

逆コースで行く

野球を知らぬは恥と今日のやうな野球狂時代に野球を知らぬとあつては恥だとも何とわからない連中まで狩り集めて作り上げた石城郡内郷村某部落の青年團チーム打者がプレートに立つと見物の子供達が「アンチャン三振したら走るんだヨ」

一生懸命、その甲斐あつてカーンとかつ飛ばしたのは上出来だつたが、走つたも走つたり三塁目がけて一目散——「アンチャン、そつちじやないよ、こつちだ」に今度は二塁から一足とびに一壘へ逆コース美事奏効してセーフ、セーフ!

技にしのぎをけつたが総得点は古河三一、五南町警

中聯合二八、五にて聯合軍惜敗午後五時盛況裡に終了を告げた因に優勝者氏名左記の如くである

- 種目 一等 二等 三等
- 百米 石田 金成 三井 (記録十一秒五)
- 八百米 泉 大槻 藁谷 (同二分廿二秒)
- 高跳 小林 金成 草野 (同一米五七)
- 言米 石田 金成 小林 (同廿四秒七)
- 巾跳 草野 金成 志賀 (同五米六五)
- 手言米 泉 萩生田 丹 (同四分五十秒)
- 三段跳 草野 金成 本間 (同十二米五八)
- 言米 石田 大槻 藁谷 (同五十六秒)

答案を書いて貰ふ

運轉手試験に失格

石城郡湯本町天王崎大田原文治(二)は本月六日施行された本縣自動車運轉手試験に甲種を受験し實地試験に合格したが前後四回學科で不合格になつてゐるため悪心を起し友人の平町字四軒町警城自動車學校生徒矢内吉明(三)に情を打ち開け答案を書いてもらつたと試験官に發見され兩名とも答案の無効の言渡しを受けた

平驛前の

廣場にヤグラ

益踊り賑かに 若人の血躍る 平町の舊盆もいよ／＼三日

明日のラジオ
廿五日
報豫氣天

今晚は北の風驟雨模様明日は北西の風曇り天気は幾分よくなる

- #### 今晚の部
- 後六、〇〇(子供の時間)
 - お話し人船「雀太刀雄」
 - 後六、三〇「趣味講座」會津藩士田邊軍次「江見水陸」
 - 後七、〇〇「全國ニュース」
 - 官廳ニュースを含む「河」
 - 北新報社ニュース「氣象」
 - 通報「告知事項」番組豫告
 - 後七、三〇「産業ニュース」
 - 後八、〇〇「謡曲」梅若龜之外數名
- #### 明日の部
- 前六、〇〇「ラヂオ体操」
 - 前六、三〇「夏期英語講座」
 - 「中等科」第三講の「増田綱」
 - 前九、〇〇「氣象通報」
 - 前九、一〇「料理献立」レゼイタン「朝倉長吉」

都市對抗野球

平町出場決定

これに會計は餘程辨當代に助かると大喜び

来る二十八日福島市營渡利グラウンドで行はれる縣下五大都市(福島、郡山、若松、白河、平)對抗野球大會へ平町俱樂部も出場と決定二十七日出發する豫定である

新町の常磐線

地下道の改修

平町と内郷村とが水戸保線事務所にしば／＼改修方を陳情中であつた平町新町から内郷村御代界に通ずる常磐線地下道はいよ／＼二十四日朝事務所から技師が來郡關係者と打合せの上實地調査をなすが事務所側では十一月ころまでには大休着工する豫定である

奈良丸來る

日本浪曲界の覇者前名吉田一若改

平町映畫界

最近座員の決死的奮闘に同情を博し然も名畫の連続に人氣は益々昂つて居る、同座にては廿六日からの盆興業にバラマウント社特別公開の冒險喜劇「ロイドの足が第一」の巨篇を始め嵐寛壽郎、原駒子の「右門捕物張十六番」青木繁、川島奈美子の現代劇「子を廻る人生」圓徳磨、高木新平の大作時代劇「時の反抗兒」等の名畫番組を示して居る

ズルイ僞ルンペン

逃げて歸る

暫く其儘放置しておく平署の妙案

平地方の失業者は昨今甚だしく連日警察、役場の窓口を賑はし係員を手古摺らしめてゐるので平署では今回取扱方に就て妙案を考へ出し、それによると性質の悪い即ち救済を半分職業とし、その連中を半分分ける爲

- #### 日用品値段
- 前一〇、三〇「夏期講習」
 - 「洋服補綴」(五)高木美代子
 - 正午 時報
 - 後〇、〇五「吹奏樂大阪ブラスバンド」指揮ヨセフリンケ
 - 一、序曲「輕騎兵」
 - スツベ作曲二、埃及巡邏兵
 - ダググイン作曲三、拔萃曲「カガアレリヤ」
 - ルステカナ「マスカリー」作曲
 - 後〇、四〇「全國ニュース」
 - 河北新報社ニュース「氣象」
 - 通報「告知事項」
 - 後二、〇〇「海外事情講座」
 - メキシコ公使館一等書記官大谷彌七
 - 後三、四〇「氣象通報」
 - 後四、〇〇「全國ニュース」

- #### 河北新報社ニュース
- 後六、〇〇(子供の時間)
 - 獨唱と二重奏「宮下禮子」
 - 宮下清子「伴奏深澤一郎」
 - 後七、〇〇「全國ニュース」
 - 官廳ニュースを含む「河」
 - 北新報社ニュース「氣象」
 - 通報告知事項「番組豫告」
 - 生駒相場
 - 後七、三〇「講演」(第二師團の饒頭山附近の戦闘)
 - 第二師團留守司令部付陸軍少將中川金藏
 - 後八、〇〇「放送舞臺劇」
 - 本幸四郎一座
 - 後九、〇〇「グアイオリン」
 - 管絃樂「東京在原町新交響樂團演奏所より中繼」
 - グアイオリン「獨奏井川フローラ夫人」
 - 日本放送交響樂團指揮篠原正雄



七の七日

【載轉禁】

渡邊 默禪 作
布施平八郎 畫

俠妓歌治 (5)

絃の調子を合せてから一
座の藝者と共に座敷にゆく
べく、襖のうちへ一足入り
かけた歌治の耳へ十文字と
いふ一語が響いた刹那に、
彼女はどきりとして思はず
其處へ竦みかけた。

お座つきを唄つてゐるう
ちにも妙に手を震るえてい
つものやうにバチが冴えな
かつた、こびりついたやう
にいがらつぽくなつた喉の
鬼もすれば聲帯を麻痺させ
て自分ながら小焦つたいや
うに息詰らせた。

惱の一時、それは極めて
短い間だつたけれども、彼
女には堪へ得られぬほどの
長いさつなに縛られてある
やうな感じをさせた。

『おいッ、女！はやくこゝ
え来て酌をせい』

後を一座のお婆さん藝者
にまかせて、急いで立ちあ
がらうとした時に、歌治は
末席に大胡座をかいてゐた
男に呼びとめられた。それ
が赤銅色の、眼のぎよろり
とした頬に山羊髭のある、
淺草あたりの新派物によく
出る敵役をつくりの面構へ
だつた。

『は——い。お酌。』
歌治は立上らんとした。

仕方なしに又坐つてお銚子
を向けた。
『美人ぢやな、きさまは
何處ぢや、何てえ名ぢや』
『あたゝい、南洋、スマト
ラよ。』
名前の儀はグーダラデレン
嬢と申します。今度ね博覧

いふなッ瘦せても枯れても
僕は木村鐵之丞ぢや見ろ、
この馬鹿野郎奴、手前等に
僕の一身が解かるものか。
この腕を……そらな。こ
いつがガンと一つ喰ると爆
裂弾が落ちたやうに一里四
方は全滅ぢや……』
『アラそやうなの、随分怖い
のね』
『怖いとも。怖いとも。驚
くな、現に今日なんぞは人
間一疋をひねりつぶしてゐ
るのだ。嘘だと思つたら一
寸その電話をかけて見ろ
日本橋の十文字商會にゐる
何ちう名だつたか、自動車



會に買はれて來たの。あな
たどツかで見えてねあ、然う
く。いつか鰐に追つかけ
られて片足を食はれかゝつ
たのは貴郎ね。まア妙なと
ころでお目に懸つてね。や
つぱり勸業團のお仲間、あ
んな團長なんぞせう。』
『莫迦ッ、失敬なことを

の運轉手ぢや』
『へえ！』
歌治は目を睜つた。
『見せたかつたな。その時
の凄惨な光景を。こいつを一
つお見舞ひ申したら、奴腦
天が碎けて即死ぢやもろい
もんぢやの、さういふ』
『あら、ほんとう！』

廣 告

季節料理

井重 0.50
な重 0.70

平田町(錦水隣り)

榮 魚 424
かば焼

上田 科醫院

平町 南町
電話二一九番

梅毒 淋病

淋病 皮膚病 婦人病
十二指 腸虫病

松村 科醫院

腸胃病 胃性
七〇一話電

科人婦・科産

院醫坂井

町田町平
番九五五話電

山崎合名會社
電話一〇番

美味！ 芳醇！ 宗正らいた

御新佛への大サービス

法名入提灯の大廉賣

瓜形 一對房付 金二圓五十錢ヨリ
角形 一對房付 金一圓五十錢ヨリ
經尺三 金三圓ヨリ 尺四 金四圓半錢ヨリ
尺五 金五圓半錢ヨリ 尺六 金七圓ヨリ
尺八 金九圓ヨリ 二尺 金十四圓半錢ヨリ
是非御下命は電話九五番？
平 四 丁 目

スガノヤ提灯店

八月廿六日ヨリ堂々公開 舊お盆興行隨一の名番組



ロイドの足が第一

東亞キネマ特作名篇：嵐寛壽郎：原駒子主演

右門捕物帳十六番

東亞キネマ現代劇：青木繁：川島奈美子

子を廻る人生

帝キネ超大作時代劇：團徳應：高木新平主演

時代の反抗兒

高級 有聲座 電話 四四六番

セメント 壁用材料 代理店 西村屋藥舗
ペンキ塗料 板 ガラス
平町二丁目電三